

# JICA 海外協力隊レポート

## 「任地での活動紹介」

ボツワナにて活動中の伊藤きららさん/職種:環境教育

2019年～2021年にコスタリカでボランティア活動されていた伊藤きららさんの次の舞台はボツワナです！任地のボツワナ共和国は、増え続けるゴミによる、悪臭、水源汚染、埋立地の限界容量などの問題を抱えています。そこで伊藤さんは、地域のゴミの減量化、リサイクルに向けた取り組みに対する住民の意識向上のためにワークショップなどの活動を行っています。そんな伊藤さんから活動レポートが届きました！



**ボツワナ共和国**  
**Republic of Botswana**



### 【私が感じたボツワナ共和国の魅力】

ボツワナ共和国に到着し、1ヶ月以上が経過しました。これまでの間、首都のハポローネで1ヶ月間、省庁表敬訪問や現地語の語学研修、JICA のオリエンテーションを受けながら過ごし、現在はゴミ削減のための環境教育活動を始めため、任地のトロツケンという首都のベッタウンに移り住みました。この国はゴミ問題を抱えてはいますが、独特な魅力が溢れる国でもあります。



さて、私が感じたこの国の魅力を一部ご紹介します。まずは、部族についてです。この国には20以上の部族が暮らしています。私は、その中の1つである「デイトゥバルーバ」という地方都市のモレポロレの部族による伝統文化フェスティバルに参加しました。ここで披露されたダンスや歌、スピーチは大変見応えがあり、「アフリカ」を感じることができます。



次に、野生動物についてです。首都では野生の猿と出会うことができますが、この国に生息する野生動物のほとんどは、野生動物保護区や国立公園に生息していて、生息するゾウの数は世界一で、約13万0000頭以上と言われています。ボツワナ最大のマシャトゥ野生動物保護区やチョベ国立公園等、国土の約17パーセントが野生動物保護区や国立公園として保全されています。私は、首都に位置するハボローネ・ゲーム・リザーブに訪れ、そこに生息する鹿やシマウマ、ダチョウ等の草食動物を見ることができました。ほとんどの動物は人間に怯えることないため、車に乗りながら観察することができます。魅力が沢山あるボツワナに是非お越しください。

